

篝火と焚火と人類

京都造形芸術大学学長
尾池 和夫

京都薪能は今年、第一日目、金剛流能『加茂』観世流能『田村』大蔵流狂言『鞍馬参り』観世流能『舍利』で、上賀茂神社、清水寺、鞍馬寺、泉涌寺を巡る。第二日目は、観世流能『弓八幡』観世流能『野宮』大蔵流狂言『鬪罪人』金剛流能『小鍛冶』で、八幡神社、野宮神社、八坂神社、伏見稻荷大社を巡るという演目である。

これらの舞台、あるいは作品のテーマとなっている神社や寺院は、洛外にあつて都を囲むように分布している。

京都薪能では、毎年、平安神宮の大極殿の前に特設の能舞台が置かれ、観世、金剛、大蔵各流儀による能と狂言が演じられる。平安時代中期に奈良の興福寺で催された薪御能が源流となつた薪能は、もともと仏事としての儀式であつた。今は、毎年五月ごろになると各地で薪能が開催される。

私が学長をつとめる京都造形芸術

大学の本部がある瓜生山の能舞台でも、毎年五月に薪能を開催する。この大学にある文明哲学研究所の掲げる課題は、人間とは何かという本質的な課題であり、それに挑戦するために霊長類を研究する松沢哲郎博士を所長に迎えている。そして人を含む霊長類の研究をもとに、人間とは何かと問いつつながら、芸術が世界の平和に貢献する道を求める。

人間とは何かを考えると、かならず登場するのが火の歴史である。人類は火を使うが、その歴史は複雑であり、また霊長類と火の関係も複雑である。

北京市の郊外にある周口店の北京原人遺跡では、二三年前から四六万年前頃に火を使った跡が残されている。一説には火の遺跡は約七八万年前とも言われる。遺跡の地層には年代が刻まれている。見学者の理解に便利であるが、その中に焼けた骨、焼かれた小石の加

工品などが残っている。

インドネシアのジャワ原人の遺跡では、五〇万年前の焼かれた骨と炭が見つかっている。世界最古の火の跡と見られているのは、イスラエルのゲシャール遺跡で、七九万年前から六九万年前に火を使っていた証拠があり、焼けたオリブ、大麦、ブドウの種、木、火打石が残されている。

焼かれた土器や石が見つかったとしても、その原因が化学反応によるものか、火山活動によって焼かれたものか、落雷などによる自然の加熱であるか、さまざまな可能性があり、人類が火を使つたという確実な証拠を得るのはきわめて困難である。

火の目的には大きく二つがあり、一つは照明のために火を使うこと、もう一つは熱源として火を使うことである。前者は篝火であり、後者は焚火であり、その役割は大きく異なる。人は、篝火の

北座 祇園本店で
販売しております

Since 1805 文化二年

井筒八ッ橋本舗

祇園本店(北座)京・川端通四条上ル
TEL.075(531)2121 <http://www.yatsuhashi.co.jp>

小倉大納言琥珀
鴨
川
を
よ
り



明るさで夜の活動が可能となり、獣や虫除けができた。火を守るために集団が生まれた。焚火では、暖をとり蛋白質や炭水化物を栄養源として利用できるようになり、病原菌や寄生虫の害が減り、澱粉の糖化で脳の拡大が誘発された。

私が理事長をとめる日本モンキーセンターには、焚火にあたる猿と、焚火で焼いた焼芋を食べる猿がいる。猫舌の猿は池の水で焼芋を冷やして食べる。

京都盆地に秦氏が、酒の神様である松尾大社と米の神様である伏見稲荷大社を創建したときから、この都市の歴史が始まったと私は思っている。長いあいだ都が置かれた京都には、世界的に見て珍しい特徴がある。それは都でありながら城壁がないという特徴である。それは闘いを好まないという民族性もあるだろうが、京都盆地が西山、北山、東山に三方を囲まれているという地形にもよっている。その地形ができたのは一二〇万年前から近畿北部一帯にわたって始まり、さらに未来に続く活断層運動の産み

出した地形である。

活断層運動では大地が繰り返し同じ場所ですれる。大きく水平にずれると同時に、上下にもずれる。その運動で隆起した山地から浸蝕された土砂が沈降した盆地に次つぎと流れ込んで、分厚い堆積層が発達した。その堆積層の中に豊富な地下水が蓄えられ、その水のおかげで京都には茶の湯が生まれ、湯葉や豆腐や菓子、和食の文化が磨きあげられてきた。それは活断層運動による変動帯の構造が生み出した文化であり、それらをまとめて私は変動帯の文化と呼んだ。数千年に一度の頻度でずれ動き、大地震を発生させる活断層の運動は、豊富な地下水の恩恵をもたらし、都の悠久の歴史を支えてきた。だから活断層は千年以上の長期間、大きな恩恵をもたらし、怖いのは激しく動いたつた一〇秒ほどの間だけであると言える。

京都の神社や寺院の多くは、活断層運動で隆起した上盤の、盆地を見おろす景観の場所に置かれてきた。それが都を囲む能と狂言の舞台となっている。

平安神宮の南にあるロームシアターのロビーには、杭迫柏樹の「遊」「創」「悠」がある。遊は芸と美の本意であり、創はうみだすことであり、悠はゆとりであって、この書はまさに京都新能の能狂言と呼応する書である。

京都の街には一三〇〇年の悠久の歴史があり、縄文人からの人類の歴史があり、京都盆地には一二〇万年前の活断層運動の歴史がある。それらの歴史の中で平安遷都一一〇〇年記念の平安神宮の広大な庭に繰り広げられる新能が、篝火のもと、杭迫柏樹の書そのままに展開される。そんなことを思いながら、私は今年もその日が来るのを待っている。

プロフィール

尾池 和夫

京都造形芸術大学学長、日本ジオパーク委員会委員長。東京で生まれ高知で育った。一九六三年京都大学卒業後、京都大学助手、助教、教授、第二十四代総長。著書に「中国の地震予知」「変動帯の文化」「四季の地球科学」など。



街並みイメージパース

販売代理

住むほどに幸せふくらむ
株式会社 エルハウジング

ISO 9001 認証企業

エルハウジング本社 Tel.075-882-5900

エルハウジング長岡店 Tel.075-958-4800

エルハウジング亀岡店 Tel.0771-23-6669

宅建業免許/京都府知事(5)第10173号
京都府宅地建物取引業協会会員
(公社)近畿地区不動産公正取引協議会加盟

〒615-0073 京都市右京区山ノ内荒木町7-58 TEL.075-882-5900(代)